



巽 好彦

(たつみ よしひこ)

昭和 10 (1935) 年、和歌山県橋本市に生ま

れる。大阪経済大学を昭和 33 (1958) 年 3 月に卒業 (24 期生)、菊田太郎ゼミ (経済地理学) に所属。卒業論文は「和歌山県の釣竿」(『大阪経大論集』第 24 号所収)。

卒業後、実家の家具店を継ぐ。30 歳ころより棟方志功の木版画に感動して、独学で木版画を修得する。そして故郷である橋本市、和歌山県、さらには京都や奈良などの風景や風物を彫っていく。昭和 63 (1988) 年に日本板画院に初出品して入選し、以後各賞を受賞し、平成 25 (2013) 年より委員に推挙される。令和元 (2019) 年には「東京今昔物語」で、板院展の最高の賞の一つである「下澤木鉢郎賞」を受賞した。

その他の版画展にも出品して多数受賞するとともに、地元での木版画の普及に努め、テレビ・新聞などでも紹介されている。故郷橋本や日本の懐かしい風景や風物を、大胆な構図と鋭いタッチで彫り、墨一色で刷り上げて、高い評価を受けている。